

日本保健医療社会学会ニューズレター (No.97) 2015/04/30

目次

1. 第41回日本保健医療社会学会大会へのお誘い
2. 日本保健医療社会学会・会長職の2年間をふり返って
3. 2014年度第4回理事会報告
4. 第42回大会開催日程・準備について
5. 次期役員選挙結果について
6. 編集委員会報告
7. 定例研究会の報告 (関東)
8. 定例研究会の報告 (関西)
9. 看護・ケア研究部会報告
10. 渉外・国際交流活動報告
11. 会報広報報告
12. 編集後記

1. 第41回日本保健医療社会学会大会へのお誘い

東京は暖かく緑のまぶしい季節となり、首都大学東京 荒川キャンパスで開催いたします第41回日本保健医療社会学会大会が5月16日・17日と間近に迫って参りました。お手元には既に青色の表紙の学会誌特別号が届いていることかと思えます。

大会テーマは「生活モデルへの転換」といたしました。シンポジウムや教育講演にはかつて保健医療社会学が提唱した概念や理論が多く登場すると思えます。これらが現在の保健医療福祉の現場でどのように具現化されてきたのかを振り返ることは研究者だけでなく、現場に従事する方々にとっても、これからの保健医療と社会のあり方を考える際の示唆を与えてくれるものと期待しています。また多くの会員の方から一般演題・ラウンドテーブルディスカッションの応募いただきましたが、いずれもが興味深く、スケジュールの関係で、すべての発表を拝見できないことが残念でなりません。

また大会の新たな試みとして、初日には編集委員会が企画するプレセミナーも開催されます。2日目には学会総会とともに園田賞の表彰式も行われます。今後は大会という場が、若手会員のモチベーションの向上や交流の推進、論文執筆能力の向上の場としても活用されることになるでしょう。

会員の皆様には、ぜひ関心をもっていそうな周囲の皆様にも声をかけていただき、多くの参加者の方に保健医療社会学の面白さを堪能していただきたいと考えております。

なお学会当日は学内の店舗は休業であり、大学近辺には飲食店や食品を販売する店舗があまり多くはございません。参加者の皆様には、両日とも昼食をご持参いただくことを強くお勧めいたします。

最後になりましたが皆様のご参加を一同で、お待ち申し上げております。

*お詫びと訂正：該当会員には既にご連絡差し上げておりますが、4月に配信した会員向けのメールにおきまして、事前参加申し込みをした会員に学会誌特別号と大会参加証・領収証を合わせて送付するとご案内差し上げておりました。スケジュールの関係で大会参加証・領収証は当日受付での配布となります。

第41回日本保健医療社会学会大会 副会長 清水準一

2. 日本保健医療社会学会・会長職の2年をふり返って

2013年5月の東洋大学朝霞キャンパスでの総会で会長をお引き受けしてから、あっという間に2年が過ぎようとしています。

今期の理事会の課題のひとつは、近い将来の、会費値下げ、学会新規事業や学会改革に備えて、学会一般会計の繰越金を、一般会計年間支出程度にまで積み上げ、かつ単年度収支では、数十万程度の黒字となるような財政構造を確立することでした。

前者については、2015年度への繰越金が400万円弱となりました。2013年度の支出が400万円程度でしたので、これを基準にすれば、目標をほぼ達成といえますが、2014年度決算予想では、支出が500万円弱になっていますので、もう少し、繰越金の積み上げが必要というところですね。

後者の点ですが、2015年度予算では、いわゆる収支とんとんで、繰越金がほとんど増えないという状況になってしまいました。これは、次に述べる課題を果たすための支出があらたに発生したことがひとつの要因です。これにかかる支出だけでなく、その他の支出も合わせて、支出削減を図るという課題を次期理事会に課すことになってしまいました。

その課題というのは、大会引き受け校がなかなか見つからないという状況を改善するために、大会引き受け校の負担を極力軽くするというものでした。これについては、部会編成作業など理事会の担当としたり、大会会計の口座開設・管理や大会要旨集編集など学会事務委託先に委託したりといったことを試みしました。これに関しては、上記のように、2016年度大会以降、このような負担軽減策の結果、発生した新たな支出の削減を図る必要があります。

先に、「近い将来の会費値下げ、学会新規事業や学会改革に備えて」と書きましたが、これに関しては、理事会および大会時評議員会で検討を行ってきました。常勤職のない会員に対する会費値下げや、〇〇周年記念特別事業などが挙がっていますが、これらの検討、具体化、執行は次期理事会に引き継ぐことになります。

その他、ISA横浜大会への協力・支援はじめ、いくつかの課題に取り組みましたが、上記3つに限ると、実現したことはほとんどなく、積み残しの課題、新たに発生させた課題を残す結果になり、恐縮の至りです。つきましては、これらの課題の遂行・解決のみならず、大会開催校の引き受けにつき、会員のみなさまの今後のさらなるご支援をお願いする次第です。また、学会の中心的な活動である大会開催と機関誌発行についても、会員のみなさまには、大会発表および機関誌投稿という形での引き続いての支援を心よりお願いする次第です。

(黒田会長)

3. 2014年度第4回理事会報告

日時：2015年3月29日（日） 13：00～16：00

会場：（株）国際文献社 アカデミーセンター 4階会議室

出席者：黒田会長，小澤理事，朝倉理事，池田理事，木下理事，清水理事，進藤理事，金子理事，事務局 平野

欠席者：三井理事，林理事

① 第41回大会の準備・進捗状況について

清水理事より第41回大会の準備状況の報告があった。

木下理事より，機関誌特別号（大会要旨集）の編集・発行状況について報告があった。

② 2015年度大会時評議員会の議題について

黒田会長より，評議員会では前回の評議員会まとめ資料と，前回評議員会にて話題となった地域別，専門分野別会員数割合の資料と，次期理事会への引き継ぎ事項を資料とすることが提案され，承認された。資料は評議員会メーリングリストにて案内を配信する際に添付し，各自でプリントアウトして持参してもらうこととした。

③ 第42回大会開催日程・準備について（黒田）

記事「4. 第42回大会開催日程・準備について」を参照のこと

④ 次期役員選挙結果について（黒田）

記事「5. 次期役員選挙結果について」を参照のこと

⑤ 次期評議員選定について

次期評議員の選定は新理事会で審議してもらうこととした。

⑥ 名誉会員制度規約の改正および名誉会員の推挙について

前者については，理事会で決議した改正案を次回大会総会で提案する。主な改正点は，資格要件のうち，年齢75歳以上を70歳以上に，役員経験通算15年以上を通算10年以上に，である。後者については，黒田会長より渋谷優子会員が名誉会員として推挙され，本人の意思確認の後，大会総会で推挙することとした。

⑦ 園田賞（学会奨励賞）候補について

選考委員会で受賞者の選考が行われ，その経過および結果が理事会に報告され，承認された。

⑧ ニューズレター97号の配信および「保健・医療社会学研究会ニュース等」のウェブアーカイブ化について（池田）

池田理事よりニューズレター97号は4月末頃の発行を予定しているため，原稿締切は4月24日とすることが報告された。記事構成案は後日，メーリングリストで提案をしてもらうこととなった。

学会の前身である保健・医療社会学研究会時代のニュース等については号数ごとに分けるのではなく，発足の経緯以外は一括でダウンロードする方法が提案され，新理事会へ引き継ぐこととした。学会が発足した後のニューズレター1号から委託前までの分については会員に呼びかけたが反応がないことから，ピンポイントで誰かに呼びかけるべきではとの意見があった。

⑨ 編集委員会報告（小澤）

記事「6. 編集委員会報告」を参照のこと

⑩ 定例研究会の報告（関東）（木下・清水）

記事「7. 定例研究会の報告（関東）」を参照のこと

⑪ 定例研究会の報告（関西）（進藤・林）

記事「8. 定例研究会の報告（関西）」を参照のこと

⑫ 看護・ケア研究部会報告（朝倉）

記事「9. 看護・ケア研究部会報告」を参照のこと

⑬ 渉外・国際交流活動（含む、社会学系コンソーシアム）の報告（金子）

記事「10. 渉外・国際交流活動報告」を参照のこと

⑭ 来年度予算案について（黒田）

予算審議の基礎資料として、2014年度決算予想が黒田会長より報告され、それをもとに予算案が審議され、4月5日の黒田会長、新選挙選出理事会合交通費を計上するなど、いくつかの修正を加えた案が承認された。

⑮ 入退会者の承認（黒田）

通常会員6名、共同発表会員1名の合計7名の入会承認が認められた。

年度末退会者は通常会員が25名、共同発表会員が24名であることが伝えられた。

資格停止予定者16名の内、1名が逝去されたことが伝えられ、資格停止退会ではなく逝去とすることとした。

⑯ 次回の理事会（大会時）までの予定について

次回理事会までの予定について確認がなされ、評議員会時の議事録作成については新理事会に決定してもらうこととした。評議員会時の弁当発注は40回大会時と同様に事務局で手配することとし、当日の配布は大会開催校側に任せることとなった為、評議員会に事務局は陪席しないこととなった。また、41回大会の会計報告は新理事会の2015年度第1回で報告となることが確認された。

（以上）

（黒田会長：総務代行）

4. 第42回大会開催日程・準備について

これは2015年度大会総会の審議事項であり、そこでの承認をもって学会として公式に決定という運びとなりますが、目下のところ、追手門学院大学社会学部の蘭由岐子教授より大会長引き受けの内諾を得ていることをお知らせしておきます。また、近隣の大学等を本務校とする会員からは、企画委員・運営委員就任、本務校所属学生・院生のアルバイト派遣という形での支援の申し出も頂いています。

（黒田会長）

5. 次期役員選挙結果について

井上洋士、鷹田佳典の両会員を選挙管理委員として、2015-2016年度日本保健医療社会学会役員選挙が2015年2月に実施されました。選挙は、2014年12月18日に告示、2015年2月9日に投票用紙などを送付し、同月28日締め切り、3月5日に開票されました。理事会からは金子理事が立ち会いました。有権者数は441名、理事選挙の有効数は93、無効数1、監事選挙の有効数93、無効数1でした。

開票結果は、即日に黒田会長に報告され、理事に関しては、第1位から第7位の得票者に黒田会長より当選の報告、そのうち1名からは事情により辞退したい旨の回答があり、第8位の得票者を繰り上げ当選として、当選の報告をしました。監事に関しては、第2位が同票で3名あったため、「役員選出に関する内規」に従って、3月29日開催の理事会にて順位を付け、第2位の順位となった当選者に当選の報告を行いました。

以上の結果をまとめると、以下のようになります。

理事選挙結果 (敬称略, 得票の多い順, 同票数の場合は五十音順)

順位	氏名	票数
1	三井 さよ	27 (辞退)
2	進藤 雄三	24
3	清水 準一	22
4	蘭 由岐子	21
4	西村 ユミ	21
6	樫田 美雄	20
7	石川 ひろの	17
8	中山 和弘	13
次点	伊藤 美樹子	12
次点	田代 志門	12

監事選挙結果 (敬称略, 得票の多い順, 同票数の場合は理事会順位付け順)

順位	氏名	票数
1	山崎 喜比古	7
2	朝倉 隆司	6
次点	野口 裕二	6
次点	栗岡 幹英	6

(黒田会長：総務代行)

6. 編集委員会報告

4月12日に編集委員会を開催し以下の事項を審議した。

- ・3月末締め切りの投稿論文 (原著10本、研究ノート3本) 計13本の担当者と査読者の決定。
- ・出版社から献本された書籍の書評に関する担当者の決定。
- ・次期編集委員会への引き継ぎ事項の検討。

(小澤理事・編集担当)

7. 定例研究会の報告 (関東)

日 時：2015年2月28日 (土) 14:00～16:00

場 所：首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス会議室A・B (秋葉原ダイビル1 2階)

報告者：すぎむらなおみ先生 (愛知県公立高等学校 養護教諭)

タイトル：「学校におけるケアの現状と課題

～スクール・セクハラや「いじめ」事件において、ケア提供者は不在だったのか～」

内 容：

すぎむら先生は、まず学校という「場」の存在から問題提起をされ、「学校」「教室」「保健室」という場における教員の規範意識、教員-児童・生徒関係などについて説明された。それ

らを前提に生徒が受ける「被害」がどのように学校内、そして家庭や警察などでどのように取り扱われているのかという点について「生徒」と「教員」の被害観のズレがしばしば生じる現状が調査による事例とご自身の経験も交え平易に説明された。

こうした状況の中、被害を受けた生徒にケアを提供する立場と考えられる養護教諭においても、その立ち位置は多様であり、積極的なケアを提供しようとした場合には、学校においてマイノリティになりがちであり、ともすると学校社会から「孤立」「バーンアウト」「排除」といった状態に陥りかねない。そうしたなか、意欲ある養護教諭たちが生徒のために学校内もしくは教育委員会や児童相談所などを交えた「仲間作り」を通じ、生徒にとってもケアを求めやすい「場」に作り替えていく作業を必要としている状況が理解できる内容であった。

報告後、10名強の参加者との質疑応答が活発に行われ、医療現場でのインシデントの扱いなどとの比較の中で、セクハラやいじめといった問題に対する学校・教育現場の認識や対応がどのようなものであるのかなどについて討論が行われた。

(清水理事・木下理事：研究活動理事・関東)

8. 定例研究会の報告 (関西)

関西地区の第2回定例研究会を、平成27年2月28日(土)13時30分～16時30分に、大阪市立大学梅田キャンパス・文化交流センター(駅前第2ビル6階)の小会議室にて開催した。研究会の報告者は、西村 ユミ先生(首都大学東京)で、テーマは「看護師に学ぶ協働実践の知——現象学と看護学の対話から」であり、本学会において現象学を用いた研究を常にリードされている西村ユミ先生を招いて、近著『看護師たちの現象学：協働実践の現場から』(青土社 2014)のテーマでもある協働実践の知を中心にお話いただいた。

現象学的記述というものが具体的にどのようなものであるのか、ありうるのかに関して理論的にはいくつかのスタンスがありうると思われる。西村先生はどのように咀嚼しておられるか。今回の報告の冒頭部分で話された、次の言葉が印象に残った。フィールドワークの実践のなかで、「一人のナースの関心に寄り添い、時間的順序ではなく、ナースが気づいた通りに」記述してゆく、という一言である。現象学的、という表現が適切かどうか分からないが、要諦の一旦が凝縮されていたと感じさせられた。

報告後、参加者25名と盛会ななかでの自由討論となり、ナースの個人的能力、時間体験、フィールドワークの困難さなどをめぐって、活発な意見が交わされた。

(進藤理事・林理事：研究活動理事・関西)

9. 看護・ケア研究部会報告

9. 1 看護・ケア部会総会の開催について

平成27年度の看護・ケア部会総会は、第41回日本保健医療社会学会会期中に開催いたします。総会の場で看護・ケア部会にご入会いただくことも可能です。皆様、奮ってご参加ください。

(なお、看護・ケア部会への入会は、随時、受け付けております。事務局にメールでご連絡ください)

——平成27年度看護・ケア部会総会の御案内——

日時：平成27年5月17日(日)12:00-13:00

場所：首都大学東京荒川キャンパス382教室

* ご昼食をご持参ください。

9. 2 平成27年度の公開企画について

看護・ケア部会では、関東定例研究会と合同で、下記のように公開企画を開催する予定ですので、ご案内いたします。最新情報は、日本保健医療社会学会ホームページ、会員メールにてお知らせします。

日時：平成27年11月28日（土）午後

場所：都内の大学施設等（詳細は未定）

テーマ：「医療政策の決定過程：会議の政治学」（仮題）

講師：森田朗先生（国立社会保障・人口問題研究所 所長）

指定討論者：小澤温先生（筑波大学大学院人間総合科学研究科 教授）

司会：中村美鈴先生（自治医科大学看護学部 教授）

趣旨：

看護・介護従事者がとる行動は、医師をはじめとした他の専門職や患者・利用者との関係性の中で成り立っていますが、医療政策もそれに影響を及ぼす重要な要素の1つです。たとえば、公的な医療保険、介護保険のもとで提供されるケアの値段は、診療報酬や介護報酬という共通価格が定められていて、どんな行為をすると何点というふうに加算がなされています。そのため、加算対象の変更によって、ケア現場の行動様式も変化するということが起こっています。こうした医療や介護の価格設定を話し合う場が、中央社会保険医療協議会であり、社会保障審議会（介護給付費分科会）です。けれども、こうした審議会と呼ばれる会議の場と、看護・介護の現場には距離感があるのも事実であるようにも思われます。審議会には、一体誰が参加して、どのようにして議論が進められているのでしょうか。

今回の公開企画では、行政学が専門で『会議の政治学Ⅱ』（慈学社、2014年）などの著書もあり、2015年夏まで中央社会保険医療協議会の会長を務められた森田朗氏をお招きし、審議会の機能をはじめとした医療政策の決定過程についてご講演をいただきます。その上で、支援現場の実態と政策に詳しい小澤温氏から疑問点や論点をご提示いただき、フロアの皆さんと課題を共有していきたいと思えます。

主催：日本保健医療社会学会 看護・ケア研究部会

共催：日本保健医療社会学会 関東定例研究会

9. 3 看護・ケア部会定例会報告 要旨

(1) 2015年1月定例会報告要旨

日 時：1月10日（土）14:30～17:00

場 所：国立社会保障・人口問題研究所 第4会議室

発表者：三浦恵美さん（東北大学大学院）

発表テーマ：「看護師長が認識するsuccessfulな部署運営(仮)」

要旨：今回の報告では、「看護師長が認識するsuccessfulな部署運営」と題して、看護師長が考えるsuccessfulな部署運営についてのインタビュー調査の報告を行いました。研究の背景や目的、

研究方法、結果、考察が報告され、分析結果として看護師長が認識するsuccessfulな部署運営と、successfulな部署運営を達成するための行動が示されました。討論の中では、看護師長が行動する前に何かしらの目標設定となるカテゴリーがあるのではないかと、successfulな部署運営を達成するプロセスには看護師長の試行錯誤がもっとあるのではないかと、一方向のプロセスが得られたが循環型や円錐形のプロセスではないのか、といった議論が行われました。また、コアカテゴリーの設定の根拠についての質問、背景から示される研究目的と考察のバランスが取れていないのではないかと指摘もなされ、分析内容や考察の方向性に対する議論も行われました。

(2) 2015年3月定例会報告 要旨

日 時：3月14日 (土) 13:30～17:00

場 所：国立社会保障・人口問題研究所 第4会議室

発表者：佐藤幹代さん (東海大学)

発表テーマ：「語りを臨床に応用する～「慢性の痛みの語り」映像を用いた慢性痛患者への看護支援の構築を目指して～」

要旨：英国Oxford 大学で作成された、データベースDatabase of Individual Patient Experiences (DIPEX) を参考に、6か月以上の非がん性疼痛の痛みを患う人と、その家族にインタビュー調査を行い、身体的・精神的・社会的苦悩や疼痛対処の方法、患者・家族・医療者の相互理解のありかたを明らかにして、生活の再構築に向けた支援ツールとして、「慢性の痛みの語り」データベースをつくるプロジェクトの紹介を行った

(http://www.dipex-j.org/outline/josei_itami)。

すでに撮影した慢性の痛みをもつ人 (腰痛,60代 ,疼痛期間23年) の語り映像を上映し、「痛みを共有すること」、というテーマについて意見が出された。痛みのケアにかかわる人は、他者の痛みを共有することは難しく理解が及ばないことがあるが、痛みに関心を持ち続け、どのようにしたらその痛みをもつ人に寄り添うことができるのか。一方では、痛みをもつ人はそもそも、痛みを理解してもらいたいと思っているか、など多様な意見が出され、議論が深まった。

日本保健医療社会学会 看護・ケア研究部会

2014～2015年度 役員

会長・中村美鈴、副会長・朝倉京子、会計・松繁卓哉、庶務・白瀬由美香 (事務局)

e-mail: y.shirase@r.hit-u.ac.jp (事務局)

10. 渉外・国際交流活動報告

国際社会への情報発信策の一環として、本学会ウェブサイト英語版の充実化を図りました。具体的には、『保健医療社会学論集』の英文題目・執筆者リストを掲載しました。また、社会学系コンソーシアムのウェブサイト上の『世界へのメッセージ Messages to the World』ページへリンクを貼りました。お知り合いの外国人研究者に紹介してください。本学会ウェブサイト英語版のURLは以下のとおりです。

http://square.umin.ac.jp/medsocio/index_e.htm

(金子理事：渉外・国際交流)

11. 会報広報報告

会報広報担当理事として、今期では、会員の米林喜男先生より提供を受けた、(1) 1974年1月5日付の「保健・医療社会研究会への御案内」にはじまる「保健医療社会学研究会」関連資料および、同じく会員で今期理事である清水準一先生より提供を受けた、(2) 保健医療社会学ニューズレター46号(2001年4月20日)から同83号(2011年度4月5日)まで——うち47・48・76号が欠——のpdfアーカイブ化が進んでいます。前者に関しては、会員名やすでに存在しない電話番号などの個人情報および特定情報のマスクが完了し、後者のものは、その処理待ちの状況にあります。これらのデータは、本ニューズレター「3. 2014年度第4回理事会報告⑧」にあるように、次期理事会の担当所轄理事に、公開のための準備として引き継ぐものとします。学会の歴史的資料ならびに過去のニューズレターに関する情報提供について御協力をいただいた先生方には深く御礼申し上げます。

(池田理事：会報広報)

12. 編集後記

会報広報担当として、伊藤美樹子先生からニューズレター(NL)を引き継いで早2年が経ちました。印刷時代の伊藤先生の清楚な紙面でありながら豊富な情報が満載したこれまでのものから、今期より電子化して武骨なものになり些か事務連絡に偏りがちになったものになり、担当理事として反省すること頻りです。理事会において「会員の声」や「新刊案内」「関連学会情報」を盛り込めば?という助言も頂きましたが、力及ばず、紙面の充実にはいたりませんでした。私個人としては、電子化をさらに推し進め、FB(フェイスブック)やTW(ツイッター)などのSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)を、その代替にするほうがよいのではないかと思います。会員限定の情報提供とどのように差異化してゆくかという今後の課題もあり、こちらのほうも新しい理事会への一理事からの提言とさせていただきます。私のNL担当は、引き継ぎを兼ねて新理事の方と協働して第41回大会後の報告号(98号)まで務めさせていただきます。この2年間本当にありがとうございました!

(池田)

発行：日本保健医療社会学会

編集：学会広報担当(池田光穂)

学会事務局：

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター

jshms-office@bunken.co.jp TEL. 03(5389)0237